

天文語[一行]辞典

- 錨** 星 我が國の讃岐地方でカシオペヤ星座を呼ぶ俗稱。
- イタリヤ** Italia ロマ、ナポリ、フィレンツェ、トリノ、ミラノ等に天文臺あり。
- 位置角** 天球上の或る大圓と時圈との間に挟まれる角。
- イデラ** | L. Ideler 獨逸の天文史家。
- イデルソン** Idelson 露國レニングラード天文研究所、計算部長
- 緯度** 赤道からの角距離
- 地心緯度** 地球の中心で測る緯度。實際觀測は出来ないが、算出し得。
- 地表緯度** 地球の表面で測る緯度。
- 地理緯度** 地理學上の緯度。
- 測地緯度** 地表の測量(例へば、三角測量など)によつて決定される緯度。
- 天文緯度** 天體觀測によつて決定される緯度。
- 緯度觀測所** 岩手縣水澤町其他世界數ヶ所にあり、協同觀測す。
- 緯度の變化** 地軸の變動による緯度の變化。
- イトリウム** 第39番の化學元素、Y. 原子量88.7太陽中にあり。
- イ | シン** Y-hsing 支那の唐の天文僧一行〔其の條を見よ〕。
- イ | ストン** C. Easton 和蘭の天文家。1898年來、銀河系は一つの渦形星霧なりと主唱。
- 池田昌意** 江戸の曆算家 春海以前に貞享曆を創意す。用ひられず。
- 石坂常賢** 天文家、1818年_L分度星圖^ヲを作る。
- イソスタシ** | Isostasy 地殼の壓力が地下一定の所で過不足相償ひ平均してゐるとの説。
- 稻葉通義** 理學士、京都花山天文臺員、昭和4年京大卒(1904—)
- 戌** 十二支の第十一番、新城博士によればオリオン星座の文字化。
- 犬星** 天には三つの犬星座があるが、主には大犬星座を言ふ。
- 犬星** 大犬座の星即ち_Lシリウス^ヲを言ふ。
- 伊能忠敬** 測地學者。日本全國を測量、製圖す。(1750—1820)
- 井上四郎** 東京三鷹天文臺助手 1932年退官(1872—)
- 亥の日** 日本舊曆の十月の初亥の日、古昔、病を拂ふため餅を食つた。
- 磯永孫四郎** 薩摩の曆學者1763年の日食を豫言す。
- 射場天文臺** 神戸市射場氏經營。1930年創立。
- イブンユニス** Ibn Junis 中世エジプトの天文家、ハケム表を作る(950—1008)
- 居待ちの月** 日本舊曆の毎月十八日の月。
- 入相** 日沒のこと。
- イリス** Iris 古代ギリシャの虹の神。又、第7小遊星 1847年ハインド發見。
- イリス灣** Sidus Iridum 月面のインブロス海北岸の圓弧形の灣、徑100軒。
- イリヂウム** Iridium 第77番化學元素 原子量193.1天體スペクトル中には無し。
- イリニウム** 第61番の化學元素、1924年米國イリノイ大學で發見。Il.

- イリノイ** Illinois 大學天文臺. 米國イリノイ州ウルバナ市にあり.
- 入 り 日** 西に没する太陽.
- 海 豚 座** トレミ1星座の一、鷲座の東隣、初秋の夕暮れ南中す.
- 色 温 度** 星のスペクトル中の色の分布で定める其の表面の有効溫度.
- イルフォド** Ilford 英國ロンドン市外の小邑、其所にイルフォド寫眞乾板會社がある.
- 色 ガ ラ ス** 色付けられた硝子、寫眞暗室に用ひ又天體寫眞用スクリン等に用ふ.
- 色 消 し** 屈折により生ずる色を消すための裝置.
- 色消しレンズ** 色消しのため凸凹二板のレンズを組み合はす.
- 色 指 數** 恒星の色の差別、普通は寫眞光度と眼視光度との差で表はす.
- 色 收 差** レンズの色消し不充分のため現はれる殘色.
- 色 寫 眞** 特殊な光波を用ひて撮る寫眞.
- イワノフ** Ivanoff ロシヤの天文家 1923—1930年間ブルコフ天文臺長、其後追放
- イワノヰチ** Ivanowitch ロシヤの天文家.
- 陰** 陽の反對、物のかげ、消極的、くらやみ等の意.
- 陰 極** 電氣や磁石の陰の極.
- 陰 性** 陰の性質.
- 陰 畫** 寫眞乾板に表はれてゐるまゝの畫、凡て陰陽反對に表はる.
- 陰 極 線** 眞空放電の際、陰極から發射する電子流.
- インクリネ | ション** Inclination 傾斜角、(軌道面の位置など表はす語)
- 引 數** Argument 或る數を求めるための他の數値、⁷近日點引數⁷など.
- 因 數** Factor 一部分又は原因となる數.
- 隕 石** 天空より落下する礦石、流星の特殊のもの、全世界に約1000あり.
- 隕 鐵** 隕石の一種で、鐵を主成分とす、世界最大のものは重さ100噸.
- イ ン チ** Inch 英國の尺度、2.540⁷に當る、日本の8寸4分弱.
- インヂウム** Indium 第49番の化學元素原子量114.8 天體スペクトル中に在り.
- インド 人 座** Indus 秋の夕暮れに南中する星座、日本内地からは見えない.
- インドの天文學** 三千年前から起り、バビロン、ペルシヤ、支那等と交渉あり.
- イ ン ド ラ** Indra インドの神、天地宇宙を司配す.
- インブロス海** Mare Imbrium 月面北部にある大海.
- 陰 陽** 二元論的な對稱的な言語.
- 陰 陽 曆** 太陽の運行と月の運動とを共に考慮した曆、例は日本の舊曆.
- 陰 陽 歲 差** 太陽と月との引力のために地軸變動し、春分點が西進すること.
- 陰 陽 五 行 說** 古代支那に起つた宇宙哲學說、萬物の根源を木火土金水とす.
- 陰 陽 道** 陰陽五行說に立脚する一種の宗教哲學.
- 陰 陽 の 會** 陰陽說に言ふ上吉の辰、陰と陽との會合する日を言ふ.
- 陰 曆** 嚴密には月の運行のみによる曆、例マホメト曆、又⁷陰陽曆⁷.
- 引 力** 壓力に反し、物の相ひ引く力、例へばニュートンの萬有引力.